

公 民 [倫 理] (100 点 50 分)

2004 年 5 月 24 日 (月) 2 限実施

千葉県立千葉東高等学校 第 3 学年 1,2,3,4,6,7,8,9 組対象

Produced by K.Kataoka

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。
 - 学年，組，名前を記入する。
 - 学年，組の該当個所をマークする。
 - 出席番号をマークする。(10 番以上は 10 の位と 1 の位の 2 カ所)
 - 男女の欄をマークする
 - 1.2.3 枚目のところはマークしない。
 - 停・欠・遅・早のところはマークしない。
 - 機械の読みとりミス確認のため、解答欄はマークの左側に番号を記入しておく。以上が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
- 4 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

倫 理

(解答番号 [1] ~ [50])

第 1 問 次の文章を読み下の問い (問 1 ~ 問 9) に答えよ。(配点 18)

「すべては水である、水こそ万物の根源である」というおおづかみな哲学をうち立てた [A] に始まって、煩瑣(はんさ)とも言いたくなるほどの細かい分析を得意にしたアリストテレスにいたるまでの期間はほぼ 250 年にすぎない。この短い期間にギリシアには多数の哲学が生まれ、多数の個性的な哲学者が輩出した。一つ一つの哲学はどれもそれぞれユニークであって、その多彩さに人は目くるめく思いに打たれるかもしれない。

アリストテレスにとどまらず、さらにギリシア哲学の展開の跡をたどっていけば、最後にプロクロスに行き当たることになる。プロティノスの新プラトン主義の哲学を整理し体系化したこの哲学者の没年は後 485 年だが、この哲学の究極の原理、始原は「一者(ト・ヘン to hen)」であり、その一者から比喩的に言えばいっさいが流出し、いっさいはまたその一者に帰る。超感覚的な一者はいわば光のような巨大なエネルギー源なのである。ここで気がつくことは前 6 世紀、「水」という一者から始まったギリシア哲学が、ほぼ 1000 年後に少なくとも形式的には、同じ一者に帰ったという事態であり、この点にギリシア哲学全体の一つの特徴を理解する鍵があるように思われる。

たしかに [A] の 水 やアナクシマンドロスの [B]、アナクシメネスの [C] といった単純な一元論の哲学と、例えばエンペドクレスの [D] 論、あるいはデモクリトスの [E] 論との間には大きな差異があるように見える。けれどもエンペドクレスの四元素の始原の状態、すなわち宇宙の第 1 期における状態は混然一体をなした、字義どおりの一者であったし、つづく時期に生ずる個々のものもいずれはもとの一者の状態に帰るしかけになっている。

デモクリトスの [E] 論においても、無数のアトマの間には形態やその他の点における相違はあるにしても、それらのアトマは元来、質的に無差別同一である。したがってアトマの合成物である個々のものはそれぞれに異なるにしても、構成要素であるアトマの次元で考えれば、相違がなく、一者の状態、言いかえれば個々のものは同一という状態が出現する。

プラトンの場合にも、類似性によって結合された一つの緊密な全体が成立していることは疑うことができない。その一つの全体とは著作『ティマイオス』における宇宙である。その宇宙は渾沌一体というような原始風景を示すものではないが、人間をも含んだ秩序正しい区分のある一つの統一体、すなわち [F] である。

さらにまたアリストテレスは、宇宙の成り立ちを発生論的に考えなかった、ほとんどただ一人の例外的なギリシアの哲学者である(彼以外に考えられるとすれば (a) ヘラクレイトスのみである)。天体は永遠の昔から同じ天体であり、ある種の生物である。地上の生物

もそれぞれ昔から同じ生物である。彼はいわゆる種の永遠の持続を主張した生物学者である。また彼によれば、それぞれの天体は 不動の動者 である永遠なる神、永遠の思惟活動を持続するヌース nous である神にあこがれて永遠の運動を続けている。地上の生物もやはり (b)神的な永遠にあこがれ、自分と同種の個体を生みおとしながら永遠性の実現にいそむ。人間はとくに他のことにわずらわされることなく思惟活動に集中するときに、(c)もっとも人間らしい生活を実現することができる。その活動こそヌースである神にもっとも近い活動なのである。アリストテレスの哲学をこのように概観すると、ここにも類似性を基礎にして成立している一つの全体、人間をも含めた一つの統一体である [F] を確実に発見することができる。

以上のように見てくると、ギリシア哲学のほとんどあらゆる場面に 一なるもの が現れていることになる。ギリシア哲学のこの一への志向はどう説明したらよいのだろうか。

例えば (d)古代ギリシアの詩人による神話的な宇宙論では、そもそもの初めに カオス があったとされている。そしてカオスからまず大地母神が生まれてくる次第になっているが、もしカオスという語のもとに カスケイン chaskein (あくびをする の意)という動詞を想定することができれば、初めにあくびありき、言いかえれば 初めに分裂ありき ということになるだろう。そしてこのことはまたさらにさかのぼった一なるものの想定を促すことになるだろう。あるいはまたオルフェウス教の古い神話によると、宇宙は 1 個の卵から孵化(ふか)したことになる。このような哲学以前の神話的な宇宙論を考慮すれば、一をたえず志向するギリシア哲学の宇宙論は、ある意味で哲学以前の神話的意識の継承であるとも言うことができる。もちろん、それは単なる継承ではなかった。あえて言えば、(e)ギリシア哲学は神話意識を合理化し、神話を合理的な言葉で語るさまざまな試みであったのである。

問1 文中の空欄 [A] に入る最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。

[1]

ヒポクラテス タレス ソロン パルメニデス

問2 文中の空欄 [B] [C] [D] [E] に入るものの組合せとして適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。 [2]

[B] 空気 [C] 無限 (定) なもの [D] 原子 [E] 多元

[B] 空気 [C] 無限 (定) なもの [D] 多元 [E] 原子

[B] 無限 (定) なもの [C] 空気 [D] 原子 [E] 多元

[B] 無限 (定) なもの [C] 空気 [D] 多元 [E] 原子

問3 文中の [F] に入れるのに最も適当なものを次の ~ のうちから一つ選べ。

[3]

ドクサ ポリス コスモス ノモス

問4 文中の下線部(a)に関して、ヘラクレイトスの思想の説明として正しいものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[4]

「有るもの」のみが存在すると主張し、「有らぬもの」の存在を前提とする生成消滅や空虚や運動を否定した。

神話的な治療方法を徹底的に排除し、純粹に経験的・科学的な立場から医学を論じた。

万物の根源は「火」であるとして、それにもとづく自然の生成消滅を支配する理法について論じた。

「あらゆるもののうちに、あらゆるものの部分がある」として、無限に微小で、無限の種類をもつ「万物の種子」がすべての存在を構成していると論じた。

問5 文中の下線部(b)に関して、人間の魂はかつて神的な永遠なる存在であったとするピュタゴラスの思想の説明として、適当でないものを次の ~ のうちから一つ選べ。[5]

厳格な規律の下、数学・音楽・体育を学ぶことを通して魂の浄化(カタルシス)を追究した。

天体はそれぞれの軌道上を異なる速度で回転運動することによって音を奏で、全宇宙は調和した美しい音楽を奏でているとした。

可感的世界を構成する存在論的原理として「数」の秩序を強調した。

「俊足のアキレウスは亀を追い越すことはできない」と論じて運動を否定した。

問6 文中の下線部(c)に関して、『ニコマコス倫理学』において、人間固有の働きの中でも最高の働きと評価される「テオリア」についての説明として最も適当なものを、次の ~ の中から一つ選べ。(2004年センター本試験より)[6]

テオリアとは、原理を直感的に把握する理性の働きである。

テオリアとは、主に制作活動に関わる理性の働きである。

テオリアとは、厳密な論証・推論としての理性の働きである。

テオリアとは、主に行為・実践を導く理性の働きである。

問7 文中の下線部(d)に関して、下のあらすじの内容の叙事詩の名前とその作者名として適当なものを、次の ~ の中から一つ選べ。[7]

ギリシアの遠征軍がトロイアを包囲して迎えた10年目の、ある49日間のできごと。アキレウスは全軍の会議の席で王アガメムノンにアポロンの怒りを鎮めるために、その神官の娘を返すよう迫るが、王は代りに彼の愛する捕虜の娘を奪う。この屈辱に怒ったアキレウスは以後の戦闘に加わることを拒み、戦局はギリシア軍に不利になるが、パトロクロスはアキレウスの武具を借りて出撃しヘクトルに討たれる。やっと怒りを解いたアキレウスは新たな武具を得てヘクトルを討ち取り、その遺骸を戦車につけて引き回し、親友を悼んで盛大な葬儀を営む。彼は遺体を請いに来た老プリアモスに故国の父をしのび、それを許す。

ホメロスの『オデュッセイア』

ホメロスの『イリアス』

ヘシオドスの『神統記』

ヘシオドスの『仕事と日々』

問8 文中の下線部(e)の考え方を反映した語は何か，最も適当なものを次の ~ の中から一つ選べ。(1993年センター本試験を改題)[8]

アイデンティティ

アンガジュマン

ロゴス

アルケー

問9 本文の趣旨に合致するものを，次の ~ のうちから一つ選べ。[9]

哲学以前の時代も哲学成立以後も，古代ギリシアの思想は宇宙の生成を合理的に探求するという点で共通している。

古代ギリシアの思想のほとんどあらゆる場面で，宇宙の統一原理としての「一なるもの」への志向が見受けられる。

新プラトン主義者，プロティノスとプロクロスは，万物の根源は「知性(ヌース)」であり，すべてはその「知性(ヌース)」から流出すると考えた。

アリストテレスも，「一者」からの流出によって宇宙が生成するという発生論的な説明を認めている。

第2問 次の文章を読み下の問い(問1～問8)に答えよ。(配点 16)

ソクラテスは、人間のあるべきあり方について徹底的に思索した西洋最初の思想家である。彼が生涯アテネの人々に向かって説いたことは、「自分の (a)魂(精神)をできるだけすぐれたものにせよ」「[A]」ということ、またそのために (b)「魂への配慮」をおこたるとなということであった。

彼によれば、富、健康、名誉といった一般的によいとされているものも、それ自体で幸福を生み出すのではなく、それらがすぐれた魂によって生かされることによって始めて幸福を生み出すのである。だから、自分の魂のことはなおざりにして、それ以外の富、健康、名誉などにのみ気を配ることは、「いちばん大切なことをいちばんそまつにし、つまらないことを不相応に大切にすること」にほかならなかった。

ところで、自分の魂をすぐれたものにするためには、何が善であり何が悪であるかについての正しい知(知識)を必要とする。したがってソクラテスは、(c)この知を他のいかなる知にもまして重視した。真の知者といわれうる者は、この知をもっている者でなければならなかった。

ところが、ソクラテスがアテネで知者といわれている政治家、詩人、技術者たちと問答をして気づいたことは、彼らのだれ一人としてこの大切な善悪についての知はもっていないということ、しかも、もっていないにもかかわらずあたかももっているかのように思いこんでいるということであった。彼らは、自分の専門とする領域のことをうまくやりとげるからといって、自分をすぐれた人間であるかのように錯覚していたのである。

これに対してソクラテスは、自分がまだ善悪についての究極的な知をもっていないということをはっきりと自覚していた(無知の知)。はっきりと自覚していたからこそ、また、その知を得たいという切なる心をもっていたのである。これに対して、自分の無知を自覚しない者はどこまでも無知のままにとどまる。ソクラテスは、結局のところ、真の知者といわれうるのはただ神だけであると考え、無知の自覚から発する (d)「知への愛」を人間の知恵の最高のあり方とした。そして彼は、(e)問答を通じて人々に無知を自覚させ、真の自己のあり方にめざめさせることを自分の使命と考え、街頭に出ては人々との問答に情熱をそそぎ、それに生涯をささげた。

ソクラテスにとって「[B]」ということこそ、すべての人々がとりくむべき第一の課題であったのである。

問1 下線部(a)に関して、「魂」を意味するギリシャ語の言葉を、次の ~ のうちから一つ選べ。[10]

エロス

フィロソフォス

プシュケー

ソーマ

問2 文中の空欄 [A]に入るソクラテスの言葉として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[11]

万物は流転する 善く生きよ 汝の敵を愛せ 欲望を捨てよ

問3 文中の下線部(b)に関して、人間の魂にも固有のアレテー（徳）が見いだされるという、ソクラテスの考え方として最も適当なものを、次の ~ の中から一つ選べ。[12]
(1995 年センター本試験より)

感覚が受け取った印象はそのまま知識となるので、アレテーを備えた魂が受け取る印象こそが真実の基準となる。

速く走ることが馬のアレテーであり、よく切れることがナイフのアレテーであるように、人間の魂にアレテーが備われば、よく生きることになる。

奴隷も市民も宇宙という一つのポリスの住人として対等なので、そのよき在り方としてのアレテーは同一であり、両者を区別して扱ってはならない。

快適なものを求め、不快なものを避けるというのは、人間の自然本性なので、快を最大限に享受する働きが魂のアレテーである。

問4 ソクラテスが批判したソフィストのうちの一、プロタゴラスに関する記述として最も適当なものを、次の ~ の中から一つ選べ。[13](2004 年センター追試験改題)

富や権力や名誉などの外面的なものや社会規範といったものを軽蔑し、自然に与えられたものだけで満足して生きる生活を理想とした。

あらゆる物事の判断基準は、判断する人間それぞれにあるとし、各人の判断以外に客観的真理が存在することを否定した。

真理の存在を否定し、弁論術にとって必要なことは真実を語るのではなく、相手が納得することを語ることであった。

水のように柔弱なあり方に従い、人からさげすまれる地位に甘んじてこそ、真の勝者となることができると説いた。

問5 文中の下線部(c)に関して、ソクラテスのこの考え方をあらわす言葉として最も適当なものを、次の ~ の中から一つ選べ。[14]

知徳合一 福德一致 知行合一 主知主義

問6 文中の下線部(d)に関して、ソクラテスの考える「知への愛」の説明として正しいものを、次の ~ の中から一つ選べ。[15]

主観的な思い込みに満足しがちな人間の心を、問答法によって無知の知に導き、真の知を求め続けること。

アイデアとしての善や美を仰ぎ見ながら我々の魂を善美にととのえ、またこの世を善く、美しく、調和あるものとする事。

宇宙を創造した神の知恵に近づくために、数学の言葉によって自然の中に隠された秩序を読み解くこと。

生成し生滅し流転する多様な存在からなる感性的世界を越えて、不変恒常の真の实在を求めること。

問7 文中の下線部(e)に関して、ソクラテスは問答法におけるロゴスの働きを重視した。ソクラテスのロゴスについての言及として最も適当なものを、次の ~ の中から一つ選べ。[16](2004年センター本試験より)

万物はロゴスに従って生じているのに、人々はそれに出会ったことがないかのである。私が各事物を自然本性に従って分析し、その真の在り方を説明しているというのに。

はじめにロゴスがあった。ロゴスは神であった。万物はロゴスによって成った。ロゴスによらずに成ったものは何一つなかった。ロゴスのうちに命があった。命は人間を照らす光であった。

私という人間は、自分で考慮してみても最善と思われるロゴス以外の他の何ものにも従わない。だから、今この場でもっとよいロゴスが提出されない限り決して譲歩しないだろう。

動物の中で人間だけがロゴスを持つ。ロゴスは人間に利と不利を、したがってまた正と不正を表示する。なぜなら、人間だけが善悪、正と不正などを知覚できるからである。

問8 文中の空欄 [B] に入る言葉として最も適当なものを、次の ~ の中から一つ選べ。[17]

悪法も法である

一を聞いて十を知れ

汝自身を知れ

知は力なり

第3問 次の文章を読み下の問い(問1～問9)に答えよ。(配点 18)

プラトン哲学の基本的動因は、ソクラテスの言行の指し示していた意味の究明、とくに問答を通じて倫理的徳目(勇気、節制、美など)を明確に定義しようとした努力の継承・発展である。ソクラテスの問い、例えば「美とは何か」を満たすべき「まさに美であるもの」が、プラトンによって[A]として積極的に措定されるようになる。これがアイデアである。アイデア論は、倫理や価値の領域をこえて、広く自然・世界解釈全般に適用され、存在と生成の問題すべてにわたる統一的な説明原理となってゆく。

これと並行して、「何よりも魂をたいせつにせよ」というソクラテスの主張は、「アイデアを認識するために魂・精神をできるだけ身体・感覚の影響から純化せよ」という要請として継承され、魂・精神は永遠不滅のアイデアと類縁関係にあって、本来不死なるものであるという確信となる。アイデア界とその認識努力の究極には、「学ぶべき最大のもの」として、[B]がある。仮説・前提を廃棄しつつ上方の原理へとさかのぼり、[B]の直知にまで到達することを旨とせず、純粹思惟によるアイデア界の探究が「ディアレクティケ(dialektike)」と呼ばれ、哲学的営為の最上位におかれる。

問1 文中の[A]に入れるのに最も適当なものを、次の～のうちから一つ選べ。

[18]

- 人間の真の知の対象となり理想となる真実在
- 事物を理性的に眺めてその本質を探究する態度
- 自然の実体の中に内在する存在の本質
- 人間が吟味して身につけるべき卓越性

問2 文中の[B]に入れるのに最も適当なものを、次の～のうちから一つ選べ。

[19]

- 求める愛
- 不動の動者
- 善のアイデア
- 永遠の魂

問3 プラトンの説くエロースを説明する語句として最も適当なものを、次の～のうちから一つ選べ。[20](2001年センター追試験より)

- 自己犠牲的な愛
- 男女間の性的な欲望
- 快樂主義的な生
- 善美なものへの憧れ

問4 エロースについて論じられた、プラトンの対話篇の書名として最も適当なものを次の～のうちから一つ選べ。[21]

- ソクラテスの弁明
- 国家(ポリテイア)
- パイドン
- クリトン
- ティマイオス
- 饗宴(シュンポシオン)

問5 プラトンがアテネ郊外に設立した学校として最も適当なものを、次の～のうちから一つ選べ。[22]

- アカデメイア
- スコラ
- リュケイオン
- ストア・ポイキレ

問6 プラトンの洞窟の比喩を説明するものとして最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[23]

洞窟の中では外界から遮断されているように、原因と結果の間には必然的な因果関係は実在しないことをたとえた比喩。

洞窟の中において自然の光が遮られているように、個人的な性格や環境に由来する偏見をたとえた比喩。

洞窟の闇に映る影絵のように、物質的現象には実体がなく、実体がないから物質的現象であることをたとえた比喩。

洞窟の壁に映った影だけを知覚している囚人のように、人間は現象を真の実在と思い込んでいるということをとえた比喩。

問7 プラトンの政治思想の説明として、適当でないものを下の ~ のうちから一つ選べ。[24]

魂と同様に国家にも統治者、防衛者、生産者の三つの階級があり、それぞれが徳を發揮するとき理想的国家が実現する。

市民団が国家の共通の利益を目的として支配する国制が正しい国制である。

哲学者が王となるか、王が哲学することが国家のために望ましい。

民主制は、自由と平等の名のもと欲望が解放され、あらゆる非行と不道徳が保護される制度である。

問8 プラトンが、人間の魂はイデアの知を求めることではじめて善いものになると主張した理由として最も適当なものを、次の ~ から選べ。[25](1995年センター本試験より)

宇宙の根本の道であるイデアを知れば、現実世界の善悪のような相対的区別や利害対立を乗り越えて、無我の境地にいたることができるから。

ひたすら善や美のイデアを見つめることで、人間の魂は、肉体による束縛を離れて、本来の姿をとることができるから。

超越的な神の定めた予定としてのイデアを知れば、真の救済にいたることができるから。

万物を相互に関連づけるイデアを感得すれば、人間の魂は現実の苦しみを滅却できるから。

問9 次の文と表の空欄[a]～[c]に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを、
下の ～ のうちから一つ選べ。[26]

プラトンの国家の三区分という考え方が、ピュタゴラス派における「三つの生き方」という理念に、少なくとも促されたものであったことは、ほとんど疑う余地がない。ピュタゴラス派の考えによれば、生き方には[a]的生,[b]的生,[c]的生の三つがあって、それらはちょうどオリンピック大会にやってくる三種の人間たち、すなわちものを売買に来る者と競技に来る者と見物に来る者に対応しているという。

(R.S.ブラック『プラトン入門』より)

国家の三区分	三つの生き方	三種の人間たち
生産者	[a] 的 生	売買に来る者
防衛者	[b] 的 生	競技に来る者
統治者	[c] 的 生	見物に来る者

[a] - 観想 , [b] - 実践 , [c] - 享楽

[a] - 享楽 , [b] - 実践 , [c] - 観想

[a] - 実践 , [b] - 享楽 , [c] - 観想

[a] - 享楽 , [b] - 観想 , [c] - 実践

第4問 次の文章を読み下の問い(問1～問9)に答えよ。(配点 18)

アリストテレスは、師プラトンのイデア論に対し、「[A]」という立場をとる。彼はイデアにあたるものをエイドス(形相)とよび、現実中存在する個物を、本質や概念を意味するエイドスと材料にあたるヒュレー(質料)とが結びついたものとしてとらえる。たとえば、現実中存在する机は、机の本質・概念と材料としての木材が結びついたものである。机の本質・概念と結びつかなければ、そこにあるのはただの木片にすぎない。エイドスとヒュレーが結びついた状態を[B]という。それに対し、ヒュレーはエイドスと結びつくことによって何物かになることのできる[C]である。したがって現実の個物は、つねにある[D]に向かって運動する手段として関連づけられることになる。そして、けっして他の手段となることのない、究極の[D]そのものが最高善である。彼は、最高善は幸福であると、それをテオリアの生活の中に求めた。

アリストテレスは、人間の徳を倫理的徳と知性的徳の二つに分ける。倫理的徳は、行動が過度と不足の両極端に走らないように、「中庸」を選ぶ態度によって養われる。とくにポリスの生活にとって重要なものとされたのは[E]である。彼が重視した中庸とは、いわば両極端に走ることのない道徳的バランス感覚ともいべきものであるが、中庸を守るのに必要な根本の徳は、人生の知恵としての(a)「思慮」である。

ヘレニズムの時代には、民族や階級や国家の区別を越えて、人間はすべて「世界市民」(コスモポリテース)であるという考え方が生まれてきた。人々は個人として人生を生きるための知恵を求めた。この時代のストア派やエピクロス派の人々は、同じ教えを奉ずる人たちの友愛団体をつくり、定期的に集まって瞑想や無言の行などの修行をした。彼らに共通しているのは、人間にとって真の幸福は[F]にあるという考え方である。

キプロスのゼノンの創始したストア派の人々は、「自然に従って生きる」ということを理想にした。自然を支配するものは[G]であり、世界は[G]によって目的にかなうようにつくられている。人間は自然の[G]に反するさまざまな欲望に支配される傾向がある。そのため、感情や欲望に動かされて自己を見失うこともおこる。ストア派では、魂が苦悩・快楽・欲情などのような外界の事物にとられる情念に動かされることなく、理性によってこれをしだいに克服していくとき、人は[H]の境地にみちびかれて真の幸福に至れるという禁欲主義の幸福論が説かれた。

ゼノンの同時代の人、エピクロスは、快楽主義の幸福論を唱えた。彼は、快楽に支配されるのではなく、逆に快楽を支配することが重要であるという。また、どんな快楽もそれぞれのよさをもってはいるが、われわれが真に求めるべき快楽は、節制や思慮や分別によって、外界にわずらわされず、いつまでも静かに、自分の中に満ち足りた状態でいられる快楽であると主張した。こうして彼は、[I]を人生の目標とみなした。

問1 文中の空欄 [A]に入れるのに最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[27]

- | | |
|-------------|-------------|
| イデアは個物を超越する | イデアは個物に内在する |
| イデアは普遍を超越する | イデアは普遍に内在する |

問2 文中の空欄 [B] [C] [D]に入れるのに最も適当な組み合わせを、次の ~ のうちから一つ選べ。[28]

- | | | |
|-----------|-----------|----------|
| [B] 現実態 | [C] 可能態 | [D] 目的 |
| [B] 可能態 | [C] 現実態 | [D] 目的 |
| [B] 現実態 | [C] 可能態 | [D] 原因 |
| [B] 可能態 | [C] 現実態 | [D] 原因 |

問3 文中の空欄 [E]に入る倫理的徳目として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[29]

- | | |
|-------|-------|
| 寛容と温和 | 勇氣と節制 |
| 友愛と正義 | 希望と愛 |

問4 文中の下線部(a) アリストテレスの思慮の徳についての説明として最も適当なものを次の ~ のうちから一つ選べ。[30]

思慮は真理の認識をつかさどり、観想的生活を目的とした理論的学問研究を支える働きをする。

思慮は無謀と臆病の中庸の徳で、過度と不足の両極端を避けたところに成立する理論的な働きをする。

思慮は知恵よりは魂の低い部分を支配しているが、時や場所や相手に応じて適切な選択をするように命ずる働きをする。

思慮は知恵よりも魂の高い部分を支配し、時や場所や相手に応じて適切な選択をするように命ずる働きをする。

問5 アリストテレスの道徳説についての説明として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[31](1999 年センター本試験改題)

人は何が中庸かを倫理的徳によって知り、過度な欲望に囚われることを避けることができる。

人は善き習慣のうちに倫理的徳を身につけ、感情や欲望を統制することができるようになる。

倫理的徳は、人間に生まれつき備わっているものである。

倫理的徳は、最高善としての幸福をもたらすものである。

問6 文中の空欄 [F]に入れるのに最も適当なものを，次の ~ のうちから一つ
選べ。[32]

真理の観想 共同体の一致 魂の平和 個人の利益

問7 文中の空欄 [G]に入れるのに最も適当なものを，次の ~ のうちから一つ
選べ。[33]

ノモス ログス ピュシス パトス

問8 文中の空欄 [H] [I]に入れるのに最も適当な組み合わせを，次の ~
のうちから一つ選べ。[34]

[H] アウタルケイア [I] アタラクシア

[H] アパテイア [I] アタラクシア

[H] アタラクシア [I] アパテイア

[H] アウタルケイア [I] アパテイア

問9 エピクロスはデモクリトスの原子説を継承し，死を恐れることの愚かさを説いてい
るが，エピクロスの考え方の記述として最も適当なものを，次の ~ のうちから一つ
選べ。[35](1999 年センター本試験より)

死に神ってのもなかなか気さくでいいやつだというのに，皆から嫌われてかわいそ
うじゃないか。この際仲よくしてやったらどうだい。

死なんてものは，言ってみりゃ暖簾（のれん）をくぐるようなものだから，ひょい
とくぐって，向こう側の人にあいさつすればいいだけのことじゃかいか。

死にたくないなんて，ずうずうしいことを言っちゃいけない。皆死なくなったら，
人があふれて地べたが重くてかわいそうじゃないか。

人間，生きている間に死ぬなんてことはないし，死んでしまえば空中のチリみたい
なものさ，何も考えられなくなるだけの話じゃないか。

第5問 次の文章を読み下の問い(問1～問14)に答えよ。(配点 30)

(a)『旧約聖書』によると紀元前13世紀ごろ、エジプトの支配からヘブライ人を救いだした指導者〔A〕は、シナイ山でヤーウエの神と契約を結んだと伝えられている。神はイスラエルを守り、イスラエルは、神の命令を守るという約束である。神との契約は、具体的には、ヘブライ民族の掟である「律法」に示されている。その根本が(b)十戒である。

ヘブライ民族はやがてパレスチナに王国を建設したが、ダビデ王やソロモン王の時代をすぎると、エジプトやアッシリアなどの強国に侵略され、紀元前8世紀ごろからしだいに混乱状態におちいった。この危機の時代に〔B〕とよばれる人たちがあらわれた。彼らがもっともつよく説いたのは、苦難に耐えて唯一の神を信ぜよということである。そうすれば必ず、神はイスラエルを救うであろう。しかしもし、神の律法を守らず、墮落した生活をつづけるならば、神はイスラエルを罰し、滅ぼすであろう。こう彼らは説いて、都市の王や貴族たちの退廃した生活をきびしく批判し、人々に、神の命令にそむく罪を悔い改め、質素と忍耐をもって純粋な信仰を守るように説いた。

イエスは紀元前4年ごろに生まれ、30歳ごろ、〔C〕とよばれる人物からヨルダン川で洗礼を受け、荒野にはいって修行の生活を送ったと伝えられている。これは当時死海のほとりにあった隠者たちの共同体にはいったことであろうと考えられている。イエスはこのときの体験を通じて、(c)人はパンのみで生きるものではないとさとり、人々に向かって神の教えを説き始めた。

彼は、預言者たちの説いた世界の終末と悔い改めの教えを受けつしたが、それだけでなく、終末の後に来るべき神の「救いの知らせ」、「喜びのおとずれ」(福音)を強調した。彼は見すてられた病人、貧しい人、罪人などを救った。

イエスはエルサレムで、従来の形式化したユダヤ教を批判したため、(d)パリサイ派とよばれる人々に憎まれ、捕らえられて十字架にかけられた。しかし、死んで葬られたイエスは、三日目に復活して昇天したと伝えられ、イエスこそはユダヤ人の待ち望んでいたメシア、すなわち救世主キリストであるという信仰が起こった。

問1 下線部(a)に関連して、旧約聖書に関する記述として適当でないものを、次のうちから一つ選べ。〔36〕(2004年センター追試験改題)

主にヘブライ語で書かれており、旧約とは本来、「古い契約」という意味である。ここで「契約」とは、神ヤハウェとイスラエルの民との間に結ばれた契約を意味している。

世界の創造者である神ヤハウェへの信仰を基礎としている。『創世記』や『出エジプト記』などから成り、様々な形で神ヤハウェによる人類全体への平等な愛を説いていることが特徴である。

『創世記』や『出エジプト記』といった多くの歴史書，預言の書などから成り立っている。ヘブライ人のエジプト寄留と脱出，また十戒などの話はこれらに記されている。

ユダヤ教及びキリスト教の聖典とみなされている。イスラエルの民だけが神ヤハウェから使命を帯びて選ばれたとする思想や，神の言葉としての律法を遵守しなければならないとする考え方がその特徴である。

問2 文中の空欄 [A] に入る人名として，最も適当なものを次の ~ のうちから一つ選べ。[37]

イサク アブラハム ヤコブ モーセ

問3 文中の下線(b)に関して，十戒の内容として適当でないものを次の ~ のうちから一つ選べ。[38]

あなたは酒を飲んで서는ならない。

あなたの父母を敬え。

あなたはいかなる像も造ってはならない。

あなたには，わたしをおいてほかに神があってはならない。

問4 文中の空欄 [B] に入るものとして，最も適当なものを次の ~ のうちから一つ選べ。[39]

律法学者 使徒 預言者 士師

問5 ユダヤ教の歴史観として最も適当なものを次の ~ のうちから一つ選べ。[40]

神のわざによって歴史は永遠に繰返され，イスラエル=ユダヤ民族の約束の地カナンでの繁栄は尽きることなく未来永劫に渡って約束されている。

唯一の神がイスラエル=ユダヤ民族を選び，この選民の歴史を通して神の意志である律法を啓示した。

神の国に至る者はあらかじめ神によって選ばれており，律法を厳格に守る者がイスラエル=ユダヤ民族の歴史を作り出してきた。

イスラエル=ユダヤ民族の中から救世主が生まれることによりすべての人類の罪は贖われたが，将来再び救世主が現れるとき，歴史は終わり死者が復活するとした。

問6 旧約聖書の中の記述として適当でないものを次の ~ のうちから一つ選べ。

[41]

神は自分に似せて地の土くれから人を創った。

アブラハムは神に命じられるまま、独り子イサクを殺して神に捧げようとした。

ダビデ王は神の独り子、救世主としてあらゆる罪とは無縁に民を治めた。

ソロモン王はエルサレムに壮大な神殿を造り、十戒の石板を入れた聖櫃を安置した。

問7 文中の空欄 [C] に入る人名として、最も適当なものを次の ~ のうちから一つ選べ。 [42]

シモン・ペトロ

バプテスマのヨハネ

イスカリオテのユダ

ポンティウス・ピラトゥス

問8 文中の下線部(c)に関して、「人はパンのみで生きるものではない」というイエスの言葉の解釈として最も適当なものを次の ~ のうちから一つ選べ。 [43]

人は食物によって満たされるだけでなく、神の言葉によって満たされることが大切である。

人はパンだけを食べて生きることはできず、十分な衣食住を心配して神に祈り求めることが大切である。

人は食事をしてただ生きていればよいのではなく、神との契約を常に忘れずに宗教的な掟を守ることが大切である。

パンはキリストの身体を意味し、ワインは十字架上で流されたキリストの血を意味するので、ミサ聖祭の大切さをあらわしている。

問9 文中の下線部(d)に関して、パリサイ派の説明として最も適当なものを次の ~ のうちから一つ選べ。 [44]

反ローマ武装闘争に決起し、ゲリラ的闘争を展開した急進派グループ

厳格な律法主義をとる平民の律法学者たち

政治的・宗教的支配権を握る貴族祭司層、地方貴族・地主たち

荒れ野で、厳格な規律に従って禁欲的な生活共同生活を行っていた人々

問10 福音書に描かれたイエスの生涯に関するエピソードとして適当でないものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[45]

マリアには、許婚者のヨセフがいたが、結婚する前に天使の御告げを聞き、聖霊によってみごもり、ベツレヘムでイエスを出産した。

イエスがヒラー山の洞窟で瞑想をしているとき、全身が押しつぶされるような感覚の中で大天使ガブリエルと出会い、その時から宣教を始めた。

十字架につけられたイエスは、「わが神、わが神、なぜ私を見捨てたのですか」という言葉を残して息を引き取った。

イエスは受難の後に復活し、自分が生きていることを数多くの証拠を持って使徒たちに示し、40日にわたって彼らにあらわれ、神の国について話した。

問11 イエスの説いた愛の思想として適当でないものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[46](2004年センター本試験より)

我々に親しい友人だけでなく、我々を嫌い敵対するものをも愛するようにしよう。自分を愛してくれる者を愛するのは当たり前であり、自分に敵対する者をさえ愛すべきなのである。

友人が暴漢などに襲われている場合、我々は速やかにその友人に手を差し伸べるべきである。たとえ命を落とすことになっても、友人を助けることは優れた愛である。

困っている人から哀願されたとき、我々はその人に同情し、その願いを聞き届けたいと思う。実現が難しくとも、我々はその憐れみの情を大切にすべきである。

道端にたたずむ流浪者のような、自分にとって疎遠な人などよりも、我々に親しく優れた人とともにいる方がよい。つまり同じ社会に生きる親しく優れた人々こそ我々は愛すべきである。

問12 イエスはそれまでのユダヤ教の神のイメージを改めたが、その内容として適切なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[47]

裁きの神から義の神へ

裁きの神から愛の神へ

父なる神から義の神へ

父なる神から愛の神へ

(問題は次のページに続く)

問13 福音書中のイエスの言葉として適当でないものを、次の ~ のうちから二つ選べ。[48][49](順不同)

人にしてもらいたいと思うことを人にもしなさい。

悪人に手向かってはならない。誰かがあなたの右の頬を打つなら左の頬も向けなさい。

「まことに、神こそは三の第三」などという者は無信仰の者である。神と言うからにはただ一人の神しかありはしない。

私が来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思ってはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。

罪人が一人でも悔い改めるなら、悔い改めを必要としない九十九人の正しい人のためにもまさる大きいよろこびが、天にあるであろう。

信仰ある人々は神の道に勇んで戦い、信仰のない者どもは邪神の道に戦う。だからサタンの手先どもに戦いを挑め。

問14 新約聖書の福音書のうちで、他の三書と異なり哲学的キリスト論を含んでいるものとして適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[50]

マタイによる福音書

マルコによる福音書

ルカによる福音書

ヨハネによる福音書

以上